

Prevent G.I.Nパートナーシップの理念

IDI認定の歯科医師・歯科衛生士がパートナー施設と共に
入所者の誤嚥性肺炎・胃ろう・認知症の予防に取り組み
いつまでも「美味しく食べられる」「楽しく話せる」ことを目標に
QOL (quality of life) 向上を目指します。

Prevent	… 予防する
G	… 誤嚥性肺炎
I	… 胃ろう
N	… 認知症

Prevent G.I.Nパートナーシップの理念

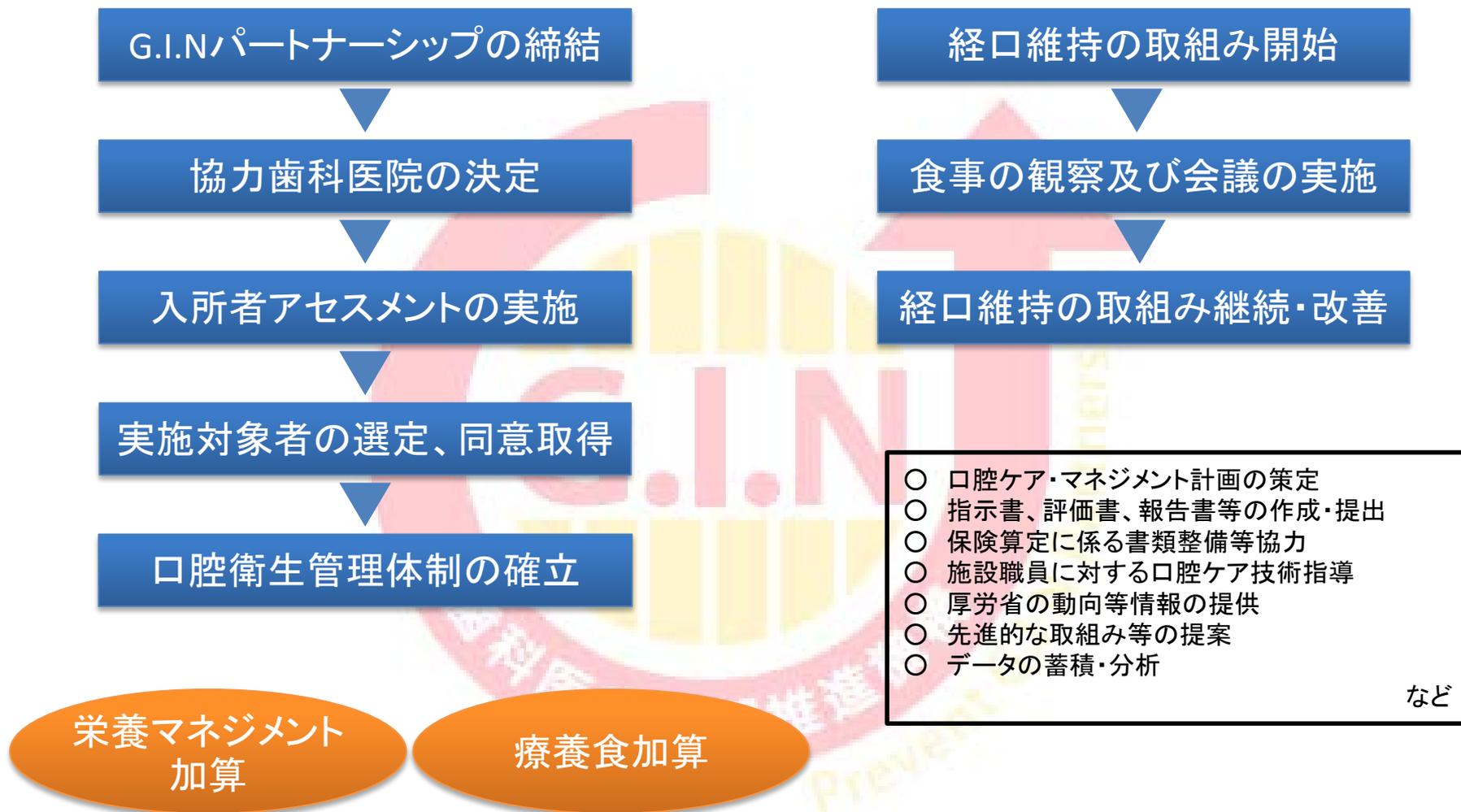
IDIでは、施設の経口維持加算等算定割合の低さは、「協力すべき歯科医院がない」、「歯科医院が摂食・嚥下についてよく分かっていない」ということが大きな原因になっていると考えています。

このことによって入所者の健康を改善できるチャンスを逸しているとするれば由々しきことです。

IDIは、摂食・嚥下障害をはじめとした高齢者歯科医療に関わることのできる認定歯科医師・歯科衛生士を養成し、パートナー施設が保険算定するための体制づくりや施設職員への研修、問題が発生した場合の改善提案などを行います。また、IDIが長年にわたり培ってきた人的資源などを活用し、行政・社会の動向などの情報をいち早く提供していきます。

Prevent G.I.Nパートナーシップについて

G.I.Nパートナーシップの流れ



G.I.Nパートナーシップの締結

協力歯科医院の決定

入所者アセスメントの実施

実施対象者の選定、同意取得

口腔衛生管理体制の確立

経口維持の取組み開始

食事の観察及び会議の実施

経口維持の取組み継続・改善

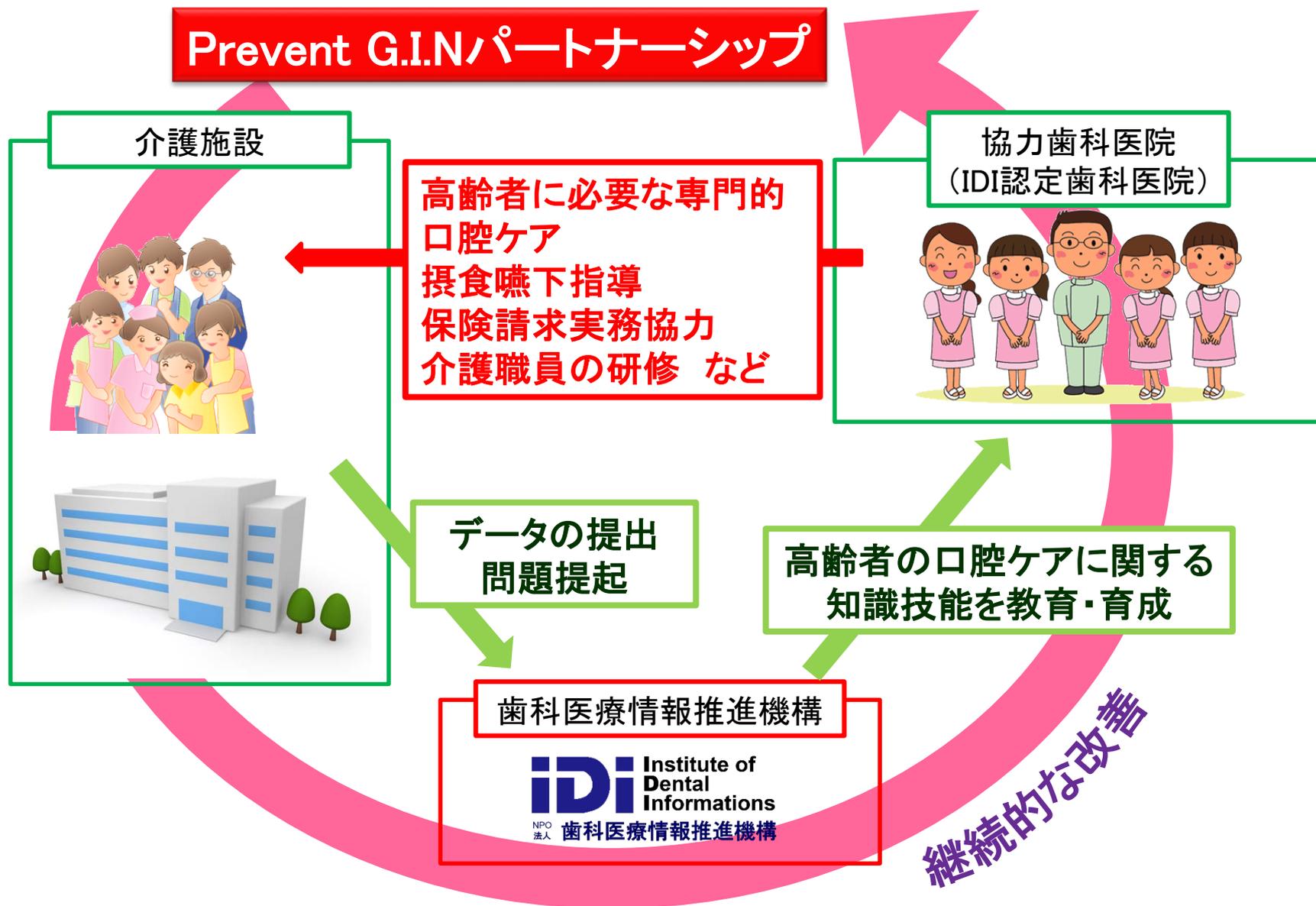
栄養マネジメント
加算

療養食加算

- 口腔ケア・マネジメント計画の策定
- 指示書、評価書、報告書等の作成・提出
- 保険算定に係る書類整備等協力
- 施設職員に対する口腔ケア技術指導
- 厚労省の動向等情報の提供
- 先進的な取組み等の提案
- データの蓄積・分析

など

Prevent G.I.Nパートナーシップについて



現在、肺炎は日本人の死因の第3位です。
そして、肺炎で亡くなる方の**9割以上は65歳以上の高齢者**です。

また、高齢者の肺炎の原因は誤嚥であると報告されています

誤嚥をすると口腔内の細菌が唾液や食物が肺に入り肺炎になります。
侵入する細菌数を減らすため、できるだけ口腔内を衛生的にしておく必要があります。

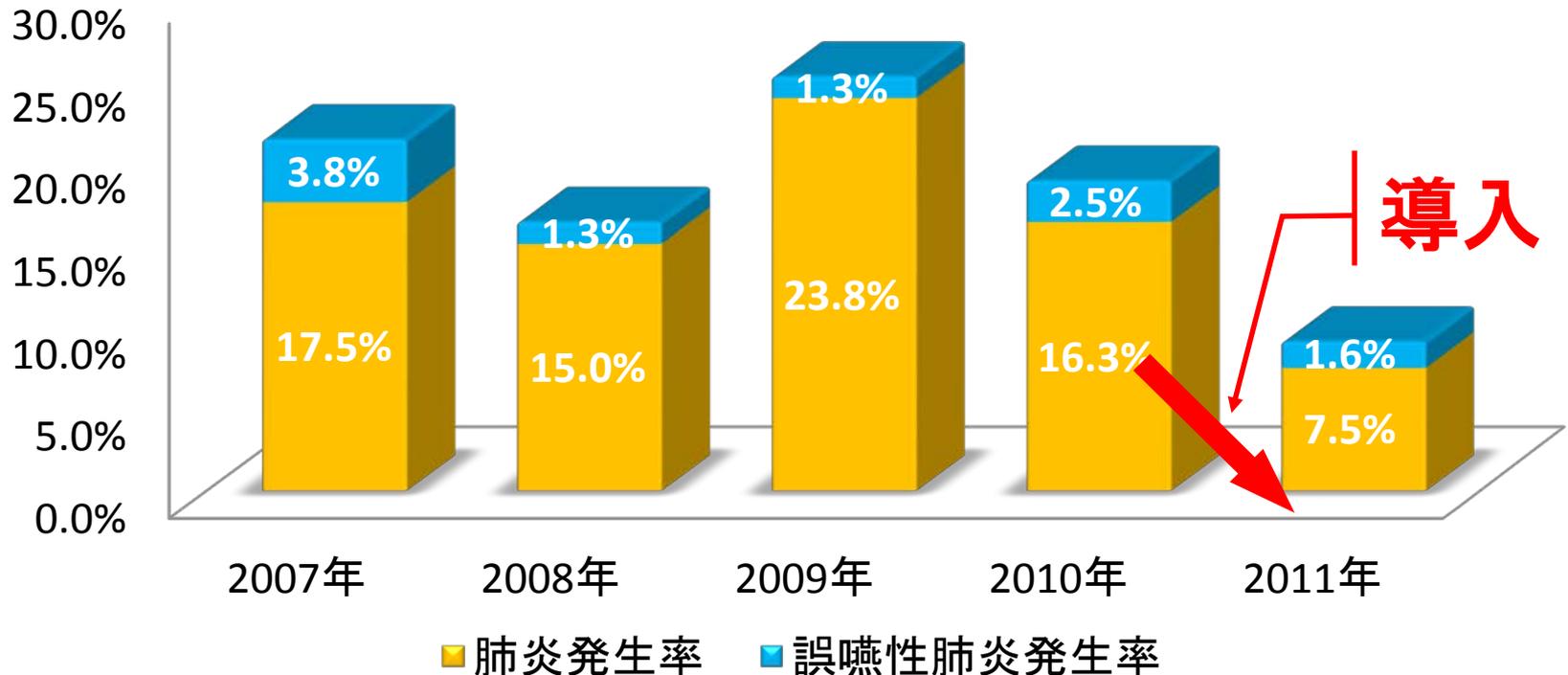
口腔機能の維持管理を行うためには、専門の歯科医師・歯科衛生士による、効果的な口腔ケア・口腔リハビリの実施がとても重要です。

Prevent G.I.Nパートナーシップについて

導入事例

肺炎発生率が

導入後、約1年を経て10%弱まで急減しました。



この他にも、昨年導入した埼玉県内のある施設では、毎月7~8人あった肺炎での入院が、翌月から0人になるなどの顕著な効果がありました。(誤嚥が疑われる入所者にVE検査を実施し、摂食嚥下方法を指示した)

Prevent G.I.Nパートナーシップについて

協力歯科医院 (IDI認定歯科医院) が行う口腔ケア

一般的な口腔ケアは口腔内の衛生を目的とした「器質的口腔ケア」です。
IDIではそれに加え、**IDI認定の歯科医師・歯科衛生士**が、口腔機能の維持・回復を目的とした「**機能的口腔ケア**」を実施します。
これは、経口維持加算等の算定に必須の内容です。



ただ清掃していたのでは、食事の楽しみは維持できません！

**「口から食べる」ことを積極的に支援することが
入居者とその家族、施設スタッフ全員の幸せにつながります。**

Prevent G.I.Nパートナーシップについて

口腔ケアの分類

器質的口腔ケア

身近な歯磨きや歯垢清掃によって虫歯や歯周病(歯槽膿漏)といった一般的な歯科疾患の予防が目的です。

口の中をきれいにすることで、誤嚥により引き起こされる肺炎(誤嚥性肺炎)や呼吸器感染症などを防ぐ役割があります。

機能的口腔ケア

噛む・飲み込む・話す・笑う・表情を作る・呼吸をする、といったことを維持・回復・増進させることが目的です。

口腔機能のリハビリとしての役割を果たし、歯科疾患予防だけでなく、認知症の予防としても重要な役割を果たします。

口腔内を清潔に保つことで人は「美味しく食べ」「楽しく話す」ことができます。

また、介護を必要とされる方は免疫力が低下している可能性があるため、口腔内の細菌を減らしたり、口腔リハビリで口腔機能を維持することが「肺炎」の予防となり、**QOL (quality of life)**の向上へつながっていきます。

Prevent G.I.Nパートナーシップについて

IDI認定歯科医師・歯科衛生士 (IDI認定歯科医院)

IDI では厚生労働省の後援のもと、歯科医師・歯科衛生士が質の高い歯科訪問診療を行うために様々な研修会を実施しています。

実際の入所者に口腔ケアを行う「実務実習」や「嚥下内視鏡 (VE)」の安全な普及に向けて技術を習得・習熟するための研修会、今後問題になってくる「インプラントのメンテナンス」を行うための研修会などを開催しています。

これらの研修会を通じて、高度な口腔ケアサービスを提供できる知識・技術を習得した歯科医師・歯科衛生士を認定し施設に派遣します。



Prevent G.I.Nパートナーシップについて

IDI認定歯科医師・歯科衛生士養成研修(兼 施設職員研修)

種別	開催予定日	内容	対象		
			歯科医師	歯科衛生士	施設職員
講義1	9月13日	高齢者歯科医療概論 口腔機能管理(基礎編)	○	○	○
講義2	9月27日	口腔機能管理演習(咀嚼の評価) 口腔機能管理演習(栄養指導における歯科の役割)	○	○	○
講義3	10月11日	医療安全 院内感染防止対策 介護現場での誤嚥性肺炎・胃ろう・認知症減少への取り組み 機能的口腔ケアの実践 多職種連携、地域包括ケアにおける歯科の役割 歯科訪問診療に係る医療・介護保険算定	○	○	○
講義4	10月25日	誤嚥性肺炎を予防する口腔ケア 高齢者歯科医療における歯科衛生士の役割	○	○	○
実地(初級)	9月以降	健常な高齢者に対する口腔ケア 適確な報告及び報告書等の作成	-	○	○
実地(上級)	9月以降	胃ろう、認知症等の高齢者に対する口腔ケア 他の職種と連携した口腔機能維持管理	-	○	○
実地(指導)	9月以降	歯科訪問診療に携わる歯科衛生士の教育、指示、管理 介護施設における歯科医院の役割 リーダーシップを取れる歯科衛生士	○ -	- ○	-
内視鏡(基礎)	11月15日	嚥下内視鏡検査の基礎知識 嚥下内視鏡検査における緊急時対応 嚥下内視鏡検査の相互実習 嚥下内視鏡検査の準備・補助・滅菌洗浄	○ - -	○ - ○	見学可
内視鏡(アドバンス)	12月10日	嚥下内視鏡検査の症例検討・グループワーク 高齢者歯科医療現場での活用 嚥下内視鏡検査の相互実習 嚥下内視鏡検査の準備・補助・滅菌洗浄	○ - -	○ - ○	見学可
内視鏡(実習)	12月以降	嚥下内視鏡検査の慣熟実習	○	-	-
インプラント	12月頃	高齢者におけるインプラント治療概論 高齢者におけるインプラントのメンテナンス	○	○	○

G.I.Nパートナー施設の職員も参加することができます。

嚥下内視鏡検査(VE)で咀嚼機能・嚥下機能の評価・指導

今回の改訂により、経口維持加算の算定要件に内視鏡検査(VE)は必須でなくなりました。しかしながら、嚥下状態を映像で確認できることの優位性が無くなった訳ではありません。確実な診断を得られるばかりでなく、映像記録による情報共有が、入所者のご家族、介護職員をはじめ、様々な立場での共通認識につながります。

IDIでは厚生労働省の後援のもと多くの研修会を開催し、嚥下内視鏡検査(VE)の技術を習得・習熟した歯科医師の養成に努めています。

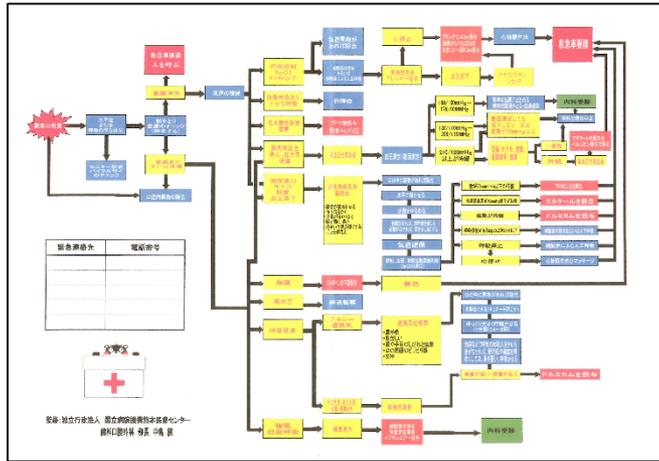
嚥下内視鏡検査(VE)とは、鼻の穴から内視鏡を挿入し、飲み込みの状態を確認する検査です。

内視鏡で喉を観察しながら食物を摂取してもらい、正しい姿勢・食事形態・食べ方、リハビリテーションの指導を行います。



IDIの研修会では、自らが被験者になることで、患者様の不安な気持ちや不快感を理解できる歯科医師を養成しています。

感染防止対策と緊急時対応



歯削る機器 7割使い回し

感染研調査 滅菌せず 院内感染懸念

歯を削る医療機器を滅菌せず使い回している歯科医療機関が約7割に上る可能性のあることが、国立感染症研究所などの研究班の調査でわかった。患者がウイルスや細菌に感染する恐れがあり、研究班は患者ごとに清潔な機器と交換するよう呼びかけている。

調査対象は、歯を削るドリルを取り付けた柄の部分。歯には直接触れないが、治療の際には口に入れるため、唾液や血液が付着しやすい。標準的な院内感染対策を示した日本歯科医学会の指針は、使用後は高温で滅菌した機器と交換するよう定めている。

調査は、特定の県の歯科医療機関3152施設に対して実施した。2014年1月までに891施設（28%）から回答を得た。滅菌した機器に交換しているか聞いたところ、「患者ごとに必ず交換」との回答は34%だった。一方、「交換していない」は17%、「時々交換しない」は17%、「時々交換する」は17%、「滅菌しない」は17%だった。

研究班の泉福英信・国立感染症研究所室長によると、多くの歯科では人手や費用がかかり、簡単な消毒で済ませている。研究班は、患者ごとに交換するよう呼びかけている。

「使い回しがわかった歯を削る医療機器」

治療の際、血液や唾液に触れやすい

ドリルの柄

ドリル

「感染症にかかっている患者の場合には交換率は35%で、計66%で適切に交換していません。指針を逸脱していました。別の県でも同じ調査を07～13年に4回行い、使い回しは平均71%だった。研究班の泉福英信・国立感染症研究所室長によると、多くの歯科では人手や費用がかかり、簡単な消毒で済ませている。研究班は、患者ごとに交換するよう呼びかけている。」

や洗浄をしただけで繰り返し使っているとみられる。厚生労働省によると、歯科での院内感染は原因の特定が難しく、国内で明らかになった例はない。

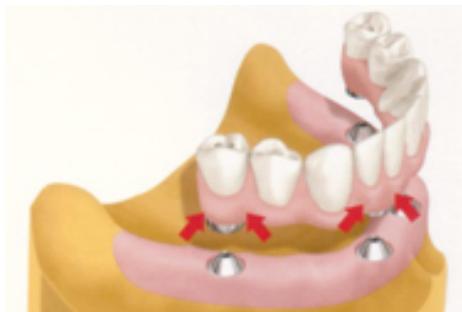
感染症に詳しい浜松医療センターの矢野邦夫副院長は「簡単な消毒では、機器を介して患者に感染する恐れのあるウイルスもある。十分な院内感染対策を取ってほしい」と話している。



IDI認定歯科医院は、院内感染対策や緊急時の対応について、万全の体制を整えた特別な歯科医院です。また、IDI主催の医療安全研修会は現在までに1,400名以上の歯科医師が受講しています。

2014年5月18日 読売新聞
 歯科医院の院内感染対策が大問題になった。
 現在も国民の関心は高い。

インプラントのメンテナンス



今後はインプラントを埋入した入所者が増加することは間違いありません。
インプラントを埋入した場合、その後の継続的なメンテナンスが欠かせません。
IDIではインプラントを埋入した入所者に対するメンテナンス、口腔ケアを実施できる歯科
医師・歯科衛生士を養成しています。



IDIの評価制度のひとつであるインプラント・セーフティーマーク(ISM)認定医院は、インプラント埋入手術において、国内屈指の実績を持つ歯科医院です。ISM認定歯科医師、大学インプラント科教授による研修会を開催しています。

映像による診断と指示(バックアップ体制)

介護施設



協力歯科医院
(IDI認定歯科医院)



協力歯科医院だけでは判断がつかない状況や、より効果的な口腔機能維持管理についてアドバイスが必要な場合など、IDIに映像を送ることによって、IDI歯科訪問診療専門医師や大学病院高齢者歯科分野から助言や指示を受けることができます。



歯科医療情報推進機構



NPO 法人 歯科医療情報推進機構

認定マークの発行と優秀表彰



誤嚥性肺炎、胃ろう、認知症の予防に積極的に取り組んでいる施設の証として「認定マーク」を発行します。認定施設はIDIホームページなどで広報され、入所者とその家族に信頼と安心を与え、施設職員のモチベーションを向上します。



取り組みの結果、誤嚥性肺炎、胃ろう、認知症の予防に顕著な効果があった施設などを表彰します。これによって、より一層な職員の意欲向上を目指すとともに、優秀な施設として、新たな職員確保のためのアピールポイントになります。

Prevent G.I.Nパートナーシップについて

Prevent G.I.N パートナーシップへの加入やお問合せは



NPO法人 歯科医療情報推進機構

〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-6 NREG本郷三丁目ビル6F

TEL: 03-5842-5540 FAX: 03-5842-5541

Mail: gin@identali.or.jp URL: <http://www.identali.or.jp>